

管理所レビュー VOL.08

(R1.7.24 水源林管理所)

今年度の第8回となるボランティア活動が、7月6日(土)に予定どおり実施されました。

前夜から降り続いた雨が朝方には止み、午後からは小雨が降りだしましたが、5月29日以降久しぶりに間伐作業を実施することができました。皆様、大変お疲れ様でした。

今年の長かった梅雨もそろそろ明けそうです。梅雨明け後は一気に真夏となり、強い日差しが照り付け、厳しい暑さとなるそうですので、ボランティア活動においても、こまめな水分補給と休息に心掛け、熱中症にならないよう注意しましょう！

それでは、安全活動のための水源林管理所の振返りなどをお知らせします。

1 57名のご参加、ありがとうございました！



雨上がりでも雲は掛かったまま。



雨上がりです。足元に注意して！



始まりの会もしっかりと！

2 当日の作業の様子。



ロープ引きは伐倒木の動きに注目。



玉切り材の移動・転落防止策。



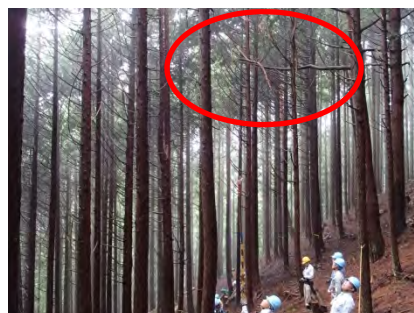
霧の中ではより一層の声掛けを。

3 枯れ枝や折れ枝の落下に注意！

林内では、足元の障害物や危険な野生生物などから自分の身を守るために、常に周囲の状況に十分注意する必要があります。特に伐倒の際は、伐倒木そのものに注意することはもちろんですが、上空から枯れ枝や折れ枝が落下し、体に当たると思いがけないケガとなる場合がありますので、十分に注意してください。



今にも落ちそうな枯れ枝を発見。



みんなで確認、情報共有。



枯れ枝や折れ枝の落下に注意！

4 安全作業の参考として（災害事例紹介）

林業・木材製造業労働災害防止協会発行 2019年「林材安全7月号」に掲載されていた災害事例を紹介しますので、安全作業の参考にしてください。

〔災害の発生状況〕

- ① 午前8時に現地に集合し、班長指揮の下、KY活動と打合せをした後、被災者は同僚2名と間伐現場に入り、間伐作業を開始した。
- ② 同僚とは等高線の並びで7m程度離れて谷側へ伐倒をしながら下って行った。午前10時45分頃、ヒノキ（胸高直径15cm、樹高13.6m）の伐倒を始め、まず受け口を作り、追い口を切り始めたが、切り過ぎて切り残し部分（つる）を切りきってしまったため、90度伐倒方向が変わり、7m離れた被災者の頭部に激突した。

③現場は立木がやや多く、枝葉のある立木ならかかり木となるような状況であったが、伐倒したヒノキは枯れており、枝葉がほとんど無く、切り残し部分（つる）を切りきってしまったため、被災者に向かって勢いよく倒れた。

〔災害の発生原因〕

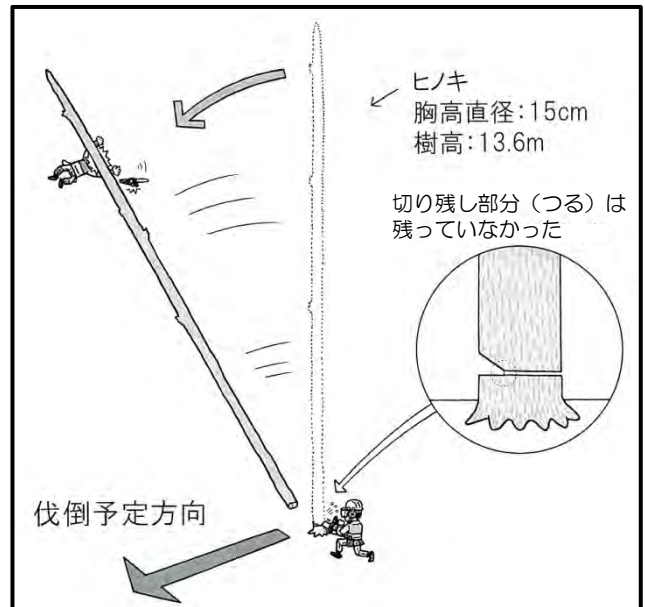
- ① 伐倒者と被災者が樹高の2倍以上離れていなかったこと。
- ② 受け口は作られていたが、追い口を切り過ぎ、切り残し部分（つる）を切りきってしまったこと。
- ③ 伐倒時の合図がされなかったこと。

〔再発防止対策〕

- ① 同時に伐倒作業をする場合は、樹高の2倍以上離れて作業すること。
- ② 切り残し部分（つる）を伐根直径の10分の1程度残すこと。
- ③ 伐倒作業を行う時は、あらかじめ伐倒時の合図（ホイッスル等）を作業者全員で確認しておく、実践すること。

（「林業・木材製造業労働災害防止協会 林材安全」より一部抜粋）

※ 切り残し部分（つる）は、切り過ぎると危険です。適正な厚さ（伐根直径の10分の1程度）を残し、倒れる速度の調整と伐倒方向を確実にしてください。

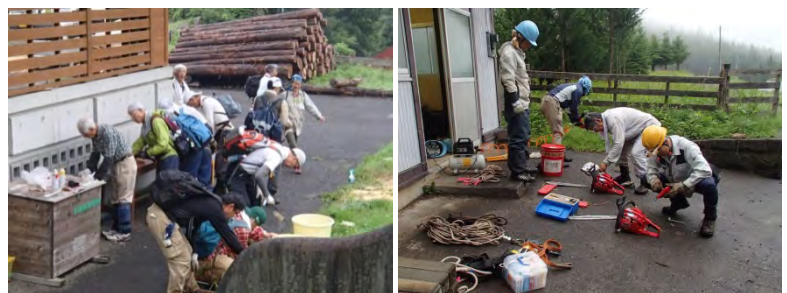


【災害の状況】

5 道具の手入れについて

毎回、作業終了後にノコギリやチェーンソーの手入れを行なっただけ、ありがとうございます。

帰り支度の忙しい時間帯ではありますが、安全な作業実施のため、引き続きよろしくお願ひします。



丁寧な道具の手入れ、ありがとうございます！

※ 小径木は、太さ10cm程度長さ2mのサイズをめどに玉切りし、搬出してください。

※ 7月26日（金）は、曇り、最高気温26度、降水確率30%の予報となっています。

★それでは7月26日、気をつけてお越してください。